

月遅れのニュースですが大事な情報です。

Newslick

20 Jul 2023

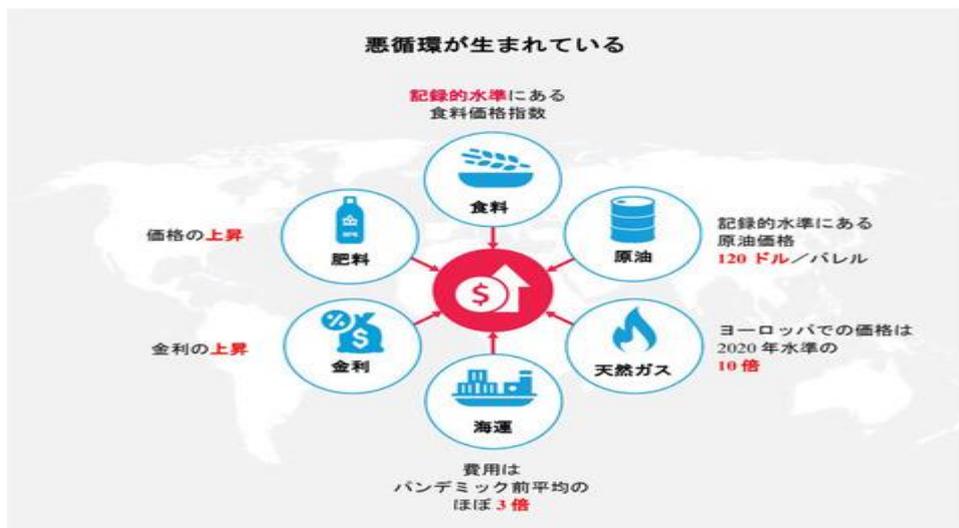
**「世界の飢餓とウクライナ戦争」
World Hunger and War in Ukraine**

<https://www.newslick.in/world-hunger-and-war-ukraine>

by Vijay Prashad

リード

黒海穀物イニシアティブの終了は残念だが、世界の飢餓の主な原因ではない。主な原因は、食糧市場における金融投機である。黒海穀物協議は今月中に再開されるだろう。これまでの中断は数週間も続かなかった。しかし今回は様相が異なる。西側諸国がロシアに農産物輸出を許可する何らかの救済を与えるかどうか不明のままである。



[国連のグローバル危機対応グループによるグラフ](#)

本文

7月17日月曜日、ロシアのプーチン大統領の報道官ドミトリー・ペスコフは、"黒海協定はもはや有効ではない"と発表した。

2022年2月にロシア軍がウクライナに進駐した数時間後に穀物協議は開始された。

この協定は黒海穀物イニシアティブと呼ばれ、その後1ヶ月の激しい交渉から生まれたものであった。

この穀物輸出計画は2022年7月22日、イスタンブールでロシアとウクライナの当局者が署名した後に発効した。調印式には国連事務総長アントニオ・グテーレスとトルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領が立ち会った。

グテーレスは、このイニシアティブを2つの理由から「希望の光」と呼んだ。

第一に、戦争が続いている交戦国の間でこのような協定が結ばれたことである。歴史上あまり前例のない合意である。

第二に、ロシアとウクライナがともに、小麦、大麦、トウモロコシ、菜種と菜種油、ヒマワリの種とヒマワリ油、の主要生産国だということである。

ある。それはカロリー換算で見て食料貿易量の12%を占めている。

さらに窒素肥料、カリ肥料、リン肥料に置いても世界有数の生産量・輸出量を占めている。

だからロシアとウクライナからの供給が途絶えれば、世界の食料市場と飢餓に壊滅的な影響を及ぼすと、さまざまな国際機関が感じていた。

そかし穀物合意にもかかわらず、欧米（主にアメリカ、イギリス、ヨーロッパ）の対ロシア制裁はさらに強まっていった。

欧米（主にアメリカ、イギリス、ヨーロッパ）の対ロシア制裁が強まるにつれ、この取引の実現可能性は低下し始めた。ウクライナの穀物輸出は（協定によって）保障されるが、ロシアの穀物輸出は（制裁によって）禁止される。

ロシアの小麦取引はSWIFTを介さず、チャーター船で行われ、バーター、あるいは中国人民元で決済される。

アメリカ農務省がことし5月にまとめた報告書によりますと、輸出先の国からのデータなどをもとに調べたところ、去年からことしにかけての1年間ではロシアの小麦の輸出量

は、前の年に比べて 36%増えて 4500 万トンとなり、過去最多を記録することが予想されるとしています。

…輸出先としては、トルコやエジプト、イラン、サウジアラビアのほか、スーダンやアルジェリアといった中東やアフリカの国々が上位を占めているということです。

[NHK ニュース \(2023 年 7 月 18 日\)](#)
より

この 1 年の間に、不満を持つロシアによって協定は何度も中断された。2023 年 3 月、ロシア外務省のマリア・ザハロワ報道官は、ロシア農業に対する制裁に対応して次のように述べた、

「穀物取引で規定された主な数字はまったく意味をなしていない」

金融化は飢餓を招く

アントニー・ブリンケン米国務長官は、ロシアが「食糧の武器化を続けている」ことを遺憾に思うと述べた。

確かに、この中止のタイミングは悪くなかった。

国連の報告書『2023 年世界における食料安全保障と栄養の現状』

(2023 年 7 月 12 日) によれば、以下の通りである。

「世界の 10 人に 1 人が飢餓と闘っている。31 億人が健康的な食生活を送ることができないでいる」

ところでこの報告は面白い数字を示している。「ウクライナの戦争が 2300 万人を飢餓に追い込んでいる」というのだ、

この数字は、金儲けの対象とされた食品市場や、COVID-19 の大流行など、飢餓を引き起こす他の要因に比べれば微々たるものだ。

その後、さらに状況は悪化している。

食料市場における金融投機を研究しているソフィー・ファン・ヒューレン博士は、2022 年末に次のように指摘した。

現在の食糧危機は、供給危機というよりもむしろ価格危機である。

黒海穀物イニシアティブの終了は確かに遺憾だが、それは世界の飢餓の主因ではない。食糧市場における金融投機が最大の原因なのだ。そのことは EU の経済社会委員会ですら同意している。

ロシアはなぜイニシアティブを中断したのか？

黒海穀物イニシアティブを監視するため、国連はイスタンブールに共同調整センター（JCC）を設置した。JCCにはロシア、トルコ、ウクライナ、国連の代表が常駐している。

JCCは何度か、ロシアとウクライナの出荷をめぐる緊張に対処しなければならなかった。たとえばウクライナが2022年10月、クリミアのセヴァストポリでロシアの黒海艦隊を攻撃したときなどである。

欧米の対ロ制裁が強化されるようになると、穀物イニシアティブをめぐる緊張が激しくなった。

ロシアが自国の農産物を世界市場に輸出することが難しくなったのだ。ロシアは国連に対し、自国の農業システムに関して3つの要求を突きつけた。

まず、ロシア政府はロシア農業銀行をSWIFTシステムに再接続するよう求めた、

それは2022年6月の欧州連合（EU）による第6次制裁措置によって、それはロシア農業のための最高

の信用・貿易銀行で、SWIFTシステムから切り離されている。

トルコの銀行家はタス通信に次のように語った。「黒海穀物イニシアティブが有効である限りにおいて、欧州連合（EU）はロシア農業銀行に「総合ライセンス」を発行する可能性がある。そしてそのルートを通じて、「JPモルガンの口座で米ドル建て取引を行うチャンスがある」と語った。

第二に、穀物イニシアティブの最初の会談で、モスクワはオデッサ港を通じたロシアからのアンモニア肥料の輸出と、ラトビアとオランダで保管されているストックの輸出を議題に載せた。

さまざまな提案がなされているが、議論の焦点は、世界最長のアンモニアパイプラインであるトリアッティ・オデッサ・パイプラインの再開である。

2022年7月、国連とロシアは、ロシアのアンモニアを世界市場で販売することを目指す協定に調印した。国連のグテーレスは安全保障理事会に赴き、「すでに西アフリカやその他の地域の農業に影響を及ぼしている深刻な肥料市場の逼迫を緩和する

ために.....我々はあらゆる手を尽くしている」と発表した。

肥料市場を安定させなければ、来年には食糧供給の危機が訪れるかもしれない。簡単に言えば、世界が食糧不足に陥る可能性があるということだ。

2023年6月8日、ウクライナ軍がハリコフのトリアッティ・オデサ・パイプラインの一部を爆破し、この紛争をめぐる緊張が高まった。ロシアには、黒海の港以外に、アンモニアベースの肥料を輸出する安全な方法がない。

第三に、ロシアの農業部門は、機械やスベアパーツを輸入できず農耕課題に直面している。またロシアの船舶は保険に加入できず、多くの外国港に入港できない。

農業に対する欧米の制裁の「除外措置」にもかかわらず、企業や個人に対する制裁はロシアの農業部門を衰弱させている。

欧米の制裁への対抗策として、ロシアは肥料と農産物の輸出を制限した。

これらの制限には、特定の商品の輸出禁止が含まれる。それが「ユーラシア経済連合へ」の小麦輸出の一時

的禁止などの措置である。さらに複合肥料を含む輸出について、戦前に設定された許認可要件を厳格化し、輸出税を引き上げた。

こうしたロシアの動きは、他国への再輸出を行う国（インドなど）への戦略的な直接販売と並行して行われている。

7月下旬、サンクトペテルブルクで第2回ロシア・アフリカ経済人道フォーラムが開催された。そこでは、これらの課題が最優先で取り上げられた。

プーチン大統領はサミットに先立ち、南アフリカのシリル・ラマフォサ大統領に電話をかけ、ロシアがアフリカ大陸に食糧と肥料を輸出する際に直面している問題について伝えている。

プーチンは次のように告げた。

「黒海穀物イニシアティブというのは、アフリカ大陸の国々を含み、穀物を必要としている国々に穀物を供給するというのが、主な目的であった。しかしウクライナはその目的に沿って実行していない」

黒海穀物イニシアティブはいずれ再開されるだろう。これまでの中断は数週間も続かなかった。

しかし今回の最大の問題は、ロシアが自国の農産物を輸出することについて、西側諸国が特例措置をもとめるかどうかである。もし金融、輸送、保険等に関する制裁措置を緩めないのであれば、ロシアの穀物輸出は不可能となる。それは世界の穀物資本にとって絶好のチャンスとなる。

覚えておくべきことがある。

飢えている世界の何十億もの人々は、食糧市場における金融投機のために飢えているのであり、ロシアの動きによって直接影響を受けるのではない。

Vijay Prashad is an Indian historian, editor, and journalist. He is a writing fellow and chief correspondent at Globetrotter.